



とどまるところを 知らぬ安倍軍拡

来年度予算要求防衛費 52兆円

北朝鮮を口実に絶好の機会とばかりに軍拡にひた走る安倍内閣。国民生活置き去り、その内容はざっと見ても

- 弾道ミサイル防衛では、新型の迎撃ミサイル「SM3ブロック2A」の取得 440億円
- 複数のミサイル同時対処警戒管制システムを47億円。
- 地上配備弾道ミサイル迎撃システム「イゾス・アソア」の設計（7億円）
- 戦闘機用の長射程巡航ミサイル導入（22億円）
- 巡航ミサイル迎撃用「SM6」ミサイルの試験弾21億円。
- 新型護衛艦2隻の建造 922億円。
- 最新鋭ステルス戦闘機F35Aを6機（785億円）
- 輸送機V22オスプレイを4機（393億円）。
- 無人機などを撃墜する高出力レーザーシステム研究 87億円
- 島嶼防衛のための部隊の施設整備に553億円「高速滑空弾」の研究に46億円。 といった具合だ。

軍費・武器の価格は秘密が多く、元々不透明なのにアメリカから買われる武器は言い値で買うことが義務付けられている。

軍拡はトランプとの同盟の証？

これらはトランプ訪日へのお土産だ。それどころか、なんとトランプの娘イバンカ補佐官にまで、お土産を持たせた。彼女が呼びかけている世銀の女性起業家支援の資金に57億円もプレゼントするという。

国とパレスチナ)の議長国として、国連総会の開催を求めた。チャブシュオール外相は「名誉ある国は米国の圧力に屈しない」、ユルドゥルム首相も「トランプ大統領はすべての国が自己決定できることを理解すべきだ。強者が必ずしも正しいわけではない」と訴えた。

へり墜落、部品落下

沖縄で相次ぐ米軍事故

世界一危険な基地として悪名高い普天間基地。またもや続けて事故。12月7日にはへりの部品が幼稚園の屋根に「US」などと書かれたプラスチック製のCH53Eの装置

カバーが落下した事件があったばかりの基地で、12日、今度はへりの窓が小学生の間近に降ってきた。10月には北部の東村高江の民間地で米軍普天間基地



所属のCH53E大型輸送ヘリが炎上した事故が起きており、相次ぐ事故事件に県民の不安と怒りが募る。

12月13日は名護市沖にオスプレイが墜落してちょうど1年にあたる。沖縄の翁長雄志知事は「悲しい」「悔しい」「怒り」と率直な気持ちを述べ、頻発する米軍機の事故の状況に「県にとっての国難とはこういった状況だ」と批判した。

こんな中で生きなければならない沖縄県民に対し歴史に無知なのか「基地の周りに住んだ方が悪い」などの暴言がある。今回も一時安倍総理の推薦でNHK経営委員をしていた作家の百田尚樹氏が12月12日放送のDHCテレビなる動画配信テレビで「幼稚園への部品落下は自作自演・ねつ造だ」と非難したり、幼稚園に対していわゆるネット右翼によるネットや電話での嫌がらせが続いているという。なぜそこまでして政府や米軍を守るのだろう。

**安倍改憲NO! 「全国市民アクション」
3000万人署名をを広げましょう**
「九条の会・流山」では署名用紙を用意しています。電話などでご連絡ください。

米 国連で孤立

米トランプ政権は12月9日エルサレムをイスラエルの首都と承認した。これは彼の支持母体である米国内のユダヤ勢力(資金、票)からの強い圧力と選挙中の公約に基づくものといわれる。しかしこれは国際秩序にとってとんでもない決定だ。国連総会は米国に撤回を求める決議案を採決し、圧倒的な賛成を得て(賛成128:反対9:棄権35)アメリカは孤立。しかしアメリカが拒否権発動、廃案となった。(日本は韓国などとともに賛成)それでもトランプ大統領は強がり、「それらの国は何億ドル何十億ドルも米国からの資金を手にしたが我々に反対票を投じる採決を注視している。反対する投票をさせとけばいい。我々はたくさん節約する。気にしない」と語ったという。俗っぽく言えば「覚えてろ、反対するなら援助打ち切るからな」というわけだ。棄権もほとんど事前に米国から脅迫されているからだ。

トルコはイスラム諸国でつくるイスラム協力機構(56カ

「福田村事件」を知っていますか？ その5

2018年の年が明けました。

昨年はアメリカと北朝鮮が、挑発、威嚇、低劣なのものしり合いに明け暮れ、そのアメリカに一も二もなく追随する安倍政権に歯がゆい思いをするばかりでした。

戦争はまっぴらごめんです。そんなに戦争がしたいのなら国民を巻き込まず、トランプと金正恩で相撲かレスリングでもして決着をつけてくれと言いたいところです。二人が取っ組み合う姿は、想像するだに愉快ではありませんか。こんなとき、行事役はこの国の誰でしょうね。

10月22日の衆院選は台風と重なり、異常な盛り上がりでした。選挙では小池知事自らの言動で人気急落、なりふり構わず彼女にすり寄っていった議員たちともども、まことにみじめな結果に終わりました。

なかでも私が失望したのは、小池都知事が関東大震災時における朝鮮人虐殺事件の追悼式典に「犠牲者数が曖昧だ」という理由で追悼文を送らなかったことです。私も以前、ある著書に犠牲者の数を「6000人を超える」と書いたところ、校正係から「このような場合、数字を挙げない方がよろしいのでは」と朱を入れて忠告された経験があります。

ただでさえ、なかったことにしたい輩がいるのに、都知事のやり方ですます「虐殺などなかった」という極論に傾くのではと、心配です。

辻野弥生（つづく）

<訂正>前回の「その4」の文中 佐野真一著『甘粕正 乱心の曠野』は『甘粕正彦 乱心の曠野』と訂正いたします。

九条の会・流山おおたかの森駅宣伝は

1月9日(火)15:30~16:30

成人式での訴え

今年も新成人への働きかけを行います。

今年の式参加者は18歳選挙権の新制度になって初めて昨年総選挙で投票した有権者です。

新時代を担う若者たちに、憲法の大切さを考えてもらうためにご協力下さい。

1月7日(日)9:30~ キックマンアリーナ

開式前の参加者にチラシ配布します

式の受付開始は10時 式開始は10:30

カンパはこちらの郵便振替口座へ

00130 - 5 - 464735 口座名 九条の会流山

昨年は多くの皆さんにカンパをお寄せいただきありがとうございました。当会はカンパのみで運営しています。

本年もよろしくお願いいたします。事務局

昨年亡くなった方のメッセージ

谷口綾暉(すみてる)さん



長崎原爆で被爆し、長く被爆者運動の主導的な存在であり続けた日本原水爆被害者団体協議会（被団協）代表委員。8月30日午前3時45分、長崎市内の病院で十二指腸乳頭部がんのため

亡くなった。88歳。

被爆して背中一面に大やけどを負い、やけどした背中



は1日おきに薬を塗らなければ「水が無い田んぼ」のようにひび割れる。痛まぬよう食事制限する。「おいしい物も食べられなかった」という苦しみを背負いながら核廃絶運動に尽力した。

「核兵器廃絶とともに原発に対しても「核と人類は共存できない。それは私たち被爆者が、初めから言っていること。それを『平和利用』とごまかして進めてきた」と糾弾。世界中を駆け巡って自らの無残なやけどをさらして訴え続けた。

日野原重明さん

聖路加病院の院長を務めながら105歳まで平和のために活動し続けた。



「戦後日本は再び戦争はしない、武器は持たないと、世界に公約した憲法が制定されました。しかし、今集団的自衛権の行使容認を

押しつけ、憲法改正を推し進め、戦時中の時代に逆戻りしようとしています。今政府が進めようとしている戦争につながる安保法案は、被爆者をはじめ平和を願う多くの人々が積み上げてきた核兵器廃絶の運動、思いを根底から覆そうとするもので、許すことはできません。」

憲法前文にある「平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めている国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思う」という文言について。

「名誉ある地位は形式的なことではなく、具体的な労力、行動、犠牲を伴います。人を愛するとき、相手のすべてを「許す」という犠牲が伴うのと同じです。それにより争いは避けられ、全体の安全が保たれることがあるのです。そのリーダーシップをとれる人がもっと日本に出てこなければなりません。武力で武力を制することはできません。」